

横 浜 の マ ン ロ ー

岡 本 孝 之

横浜にて最初の発掘調査をおこなったのはN・G・マンロー (1863~1942) である。神奈川区三ツ沢貝塚を大規模に1905年に八木柴三郎らと実施した医者・考古学者である。生後140年、没後60年をすでに過ぎたが、考古学史的にはよく知られていない。ことし5月に『神奈川考古』誌第40号に「文明開化横浜の考古学—モース、マンローと近代遺跡—」と題してマンローの伝記をまとめてみたが、ここではマンローの横浜での住まいの跡を追跡してみたいと思う。いろいろな人との重なりがおもしろい。

手引きは桑原千代子氏の『わがマンロー伝—ある英国人医師・アイヌ研究者の生涯—』1983である。岡本勇元会長もマンローについて述べており、本会の『考古論叢神奈河』創刊号などに掲載されている。

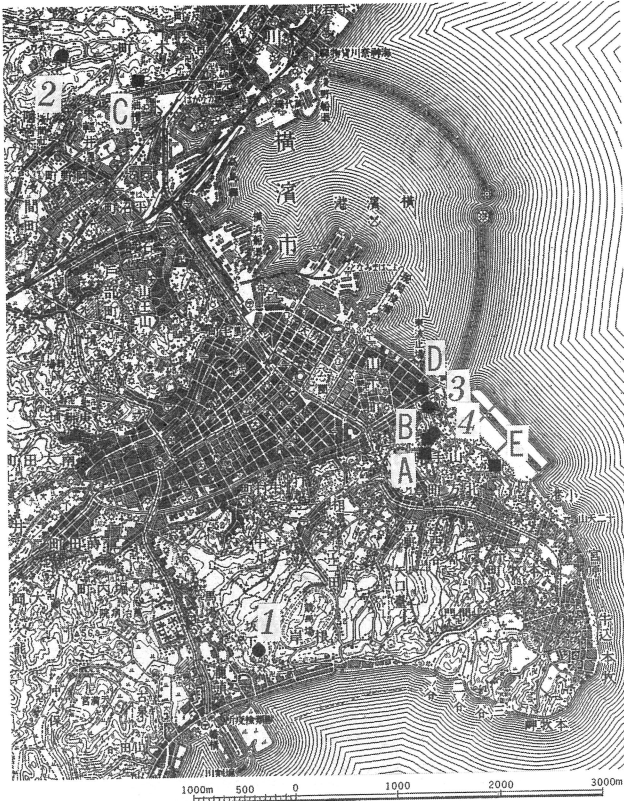
1892年5月 (武内博1995『来日西洋人名事典』)、横浜港象の鼻あたりで上陸した病身のマンローは、山手82番 (図のA) にあった横浜一般病院に入院する。回復したマンローは1893年に8代院長に就任し、病院のすぐ前の91番に住む (B)。1904年、1905年の日本アジア協会の名簿にあるが、1895年に貿易商レッツ商会の娘と結婚しているので、それを契機としているものと思われる。今は元町公園内の元町プールの東側あたりである。目の前にひろがる外国人墓地には貝殻坂貝塚 (山手貝塚) (4)や、元町貝塚(3)があった。元町貝塚はマンローの前任者ウィラーの邸内である。ウィラーは関東大震災で亡くなるが、その跡地は神奈川県知事の新しい公舎として予定されているところでもある。山手貝塚はマンロー邸のすぐ向い側になる。マンローは1904年に根岸の坂の台貝塚(1)をベルツと



①

発掘している。ベルツは間門ホテルを拠点としていた。河野常吉によれば1903・1904年に北海道を旅行している (斎藤忠2000『古代遺跡の考古学者』) が、本人の記録とあわないので検討を要する。マンローの長男ロバート (1896~1899) は外国人墓地内のレッツ家墓地に埋葬されている。

1905年に離婚し、5月に高島とくと結婚する。1906年5月25日に小金井良精が三ツ沢貝塚(2)調査を見学して高島山30 (C) の自邸を訪問している。三ツ沢貝塚の発掘は前年の1905年秋から始っており、マンローは再婚と貝塚調査を目的に転居したようだ。また、一般病院とは別に自宅でも開業していたという。日本アジア協会の例会も開催したようだ。高島山30は高島嘉右衛門の貸家番号で、現在の横浜駅を見下ろす高台にあった。1932年にマンローは籍を青木町台町1780番地から北海道二風谷に移している。現在の神奈川県私学会館付近で巨大な内山岩太郎元知事の像がある。



②

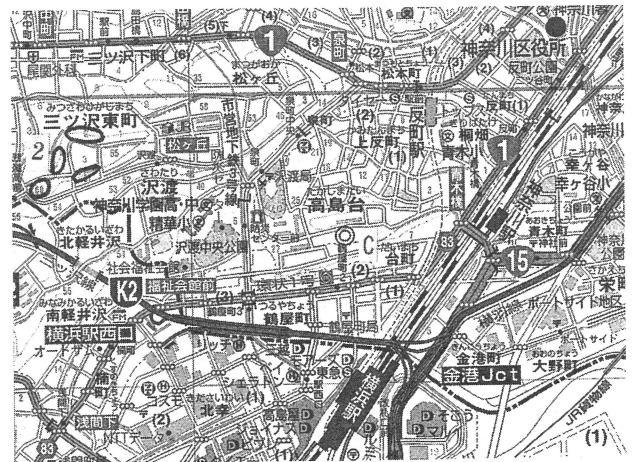
青木町1780番地には初期の人類学会員であった福田乾一の住所と同じであり、昭和期に遺跡を多く発見した松下胤信が1929年に弥生式土器を採集した地点でもある(『史前学雑誌』1-5)。神奈川区No.76遺跡(台町42番地付近)として周知の遺跡が近くにマークされている。

1909年に再び離婚している。1908年に出版した『先史の日本』の第2版は1911年に英国で印刷されたが、住所は山下町39番地(D)となっている。現在の横浜地方合同庁舎のある所で、山手への谷戸橋際である。横浜市人形の家裏手である。ここはへボン旧邸の記念碑がある。へボンとは直接の関連は無く、建物も違うようである。マンローは自動車で出勤し、ゲーテ座にも自動車で出かけたという。一説に37番地も上げられているが、近接地であり同一地であろう。1910年には山の手町88番地にもいたらしい。1911・1912年に伊勢佐木町の石田亭で横浜古泉会の展覧会を開催している。

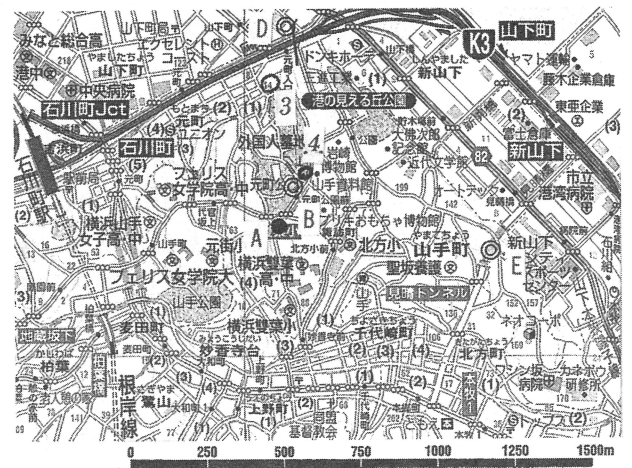
1914年10月にはスイスの貿易商の娘と再婚し、1917年4月14日に山手町147番地(E)の新居で結婚披露のパーティを開き、小金井良精らが出席した。夫人の関係から大山柏(大山巖の次男、史前

学研究所を主宰)もいたにちがいない。マンローは、九州や北海道旅行、軽井沢に病院を開設するなど多忙であったようであるが、義父が亡くなり、1923年9月の関東大震災により、一変した。資料や蔵書が焼失したのはこの地点であろうか。いまはマンションとなる。4度離婚したマンローは横浜での生活をやめ、北海道へ向かい、5回目の結婚をして関心もアイヌに絞られてきた。

山手から青木町台町へはかつては市電で連絡していたが、今は地下鉄みなとみらい線ですぐである。来年2005年はマンローの三ツ沢貝塚発掘100周年の記念の年となる。マンローの足跡は神奈川の考古学の歩みであり、そこに近代横浜の遺跡を探してみたい。



③



④

①は斎藤忠1982「解説」『PREHISTORIC JAPAN』第一書房、②は日本地図センター1996「1921年頃の横浜」『地図で見る横浜の変遷』、③・④は昭文社2004『県別マップル道路地図神奈川県』から引用

第28回 神奈川県遺跡調査・研究発表会報告

去る平成16年10月3日（日）横浜開港記念会館に於いて、神奈川県教育委員会と横浜市教育委員会の後援をいただき、第28回神奈川県遺跡調査・研究発表会報告を開催しました。終日生憎の秋雨の中でしたが、約183名にのぼる参加者（主催者調べ）がありました。

今回の発表は、口頭発表11遺跡、誌上発表2遺跡の計13遺跡となりました。当日の進行は、寺田兼方会長の開会挨拶があり、その後、午前中に4遺跡の発表と弥生時代の発表に関するコメント、午後には7遺跡の発表と古墳時代の発表に関するコメント、伊藤秀吉副会長の閉会挨拶でした。また、7団体が参加して図書交換会を行いました。

当日の発表内容についてまとめると、午前中の



会場風景



受付風景

発表では、(財)茅ヶ崎市文化振興財団の高橋 和さんに「茅ヶ崎市 大久保C遺跡・D遺跡—縄文時代中期の集落—」と題して、湘南地域にあたる茅ヶ崎市域縄文時代中期後半の集落跡を報告いただきました。茅ヶ崎市域で調査機会の少ない縄文遺跡であり、大規模な中期後半の集落跡です。

山武考古学研究所の武部喜充さんには「横浜市 矢崎山西遺跡—縄文時代中期・弥生～古墳時代の環濠集落・古代—」と題して、弥生時代中期宮ノ台式期環濠集落と古墳時代から平安時代の大集落跡を報告していただきました。矢崎山西遺跡は、古墳時代中期の大集落である矢崎山遺跡の隣接地点であり同一遺跡を形成していると推定されます。今後両遺跡の調査成果を十分に研究して行かねばならない遺跡でしょう。

(財)かながわ考古学財団の小川岳人さんには「茅ヶ崎市 小出川河川改修事業関連遺跡—茅ヶ崎市七堂伽藍跡・寒川町No.76遺跡—」と題して、小出川河川改修関連遺跡の調査成果のうち、下寺尾廃寺・高座郡衙と推定される西方A遺跡と関連深い掘建柱建物址や竪穴住居址、瓦等について発表いただきました。

鎌倉遺跡調査会の斎木秀雄さんには「鎌倉市大倉幕府周辺遺跡群—弥生時代集落と大倉幕府跡—」と題して、鎌倉幕府の南御門付近で確認された、鎌倉では検出事例の少ない弥生時代中期から古墳時代前期集落跡、古墳時代前期方形周溝墓について報告いただきました。

続いて、伊勢原市教育委員会の立花 実さんに「弥生時代の発表に関するコメント」を行っていただきました。立花さんは、矢崎山西遺跡と大倉幕府周辺遺跡出土土器の様相と年代観を検討し、神奈川弥生時代の地域性についてコメントし、環濠集落・方形周溝墓等について解説されました。

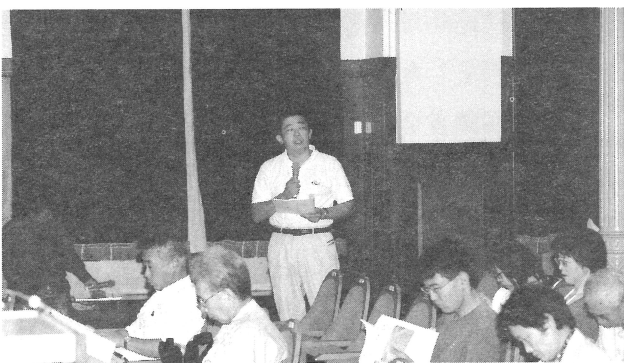
午後の発表では、横須賀市立博物館の稲村 繁さんには「横須賀市 かるうと山古墳—切石組合せ式石棺を主体部とする終末期古墳の調査—」と

題して、神奈川県内では検出事例の少ない終末期箱式石棺を持つ古墳の墳丘形態・規模の確認調査・主体部再実測調査を報告いただきました。

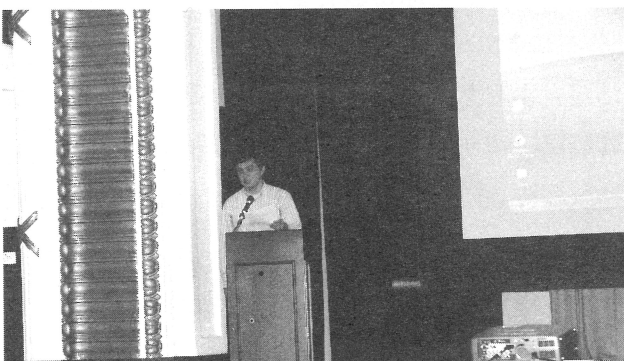
(財) かながわ考古学財団の植山英史さんには「厚木市 中依知遺跡（仮称）－桜樹古墳群と横穴墓、中世地下式坑の調査－」と題し、7世紀中葉の桜樹古墳群と中世地下式坑群と出土備蓄銭について報告いただきました。特に備蓄銭は神奈川県内の遺跡調査では2番目の事例であり、所謂銭縉状で出土し、1縉の構成枚数がほとんど97枚であるものです。今後の整理作業が期待されます。

古墳を中心とした発表後に、(財)かながわ考古学財団の須藤智夫さんに「古墳時代の発表に関するコメント」を行っていただきました。須藤さんは当日用にレジュメを用意され、横須賀市かろうと山古墳と中依知遺跡桜樹古墳群に対して、三浦半島と愛甲郡の古墳についての系譜・背景・築造層などについてコメント頂きました。

(財) かながわ考古学財団の宮坂淳一さんには「海老名市 社家宇治山遺跡－中世の居館及び古



弥生時代コメント立花さん



古墳時代コメント須藤さん

墳時代前期玉作り工房・方形周溝墓群－」と題して、相模川左岸に発達した自然堤防上の古墳時代前期玉作り工房、方形周溝墓群について報告いただきました。相模川に発達した自然堤防上や海老名低地は従来発掘調査のあまり行われていなかった地点であり、今後注目されます。

(財) かながわ考古学財団の柏木善治さんには「平塚市 湘南新道関連遺跡－六ノ域遺跡における平安時代の連房式鍛冶工房を中心として－」と題して、国府域に付随する官営鍛冶工房の調査状況について詳細に報告いただきました。

安藤文一さんには「山北町 県史跡河村城跡－県内最大である中世山城の整備調査－」と題して、史跡整備に伴う遺構範囲確認調査について報告いただきました。河村城は今回までの確認調査の成果から今後史跡整備事業に着手する計画です。

小田原市教育委員会の諏訪間順さんには「小田原市 小田原城下本町遺跡第Ⅲ地点－小田原城最古の障子堀－」と題して、後北条時代初期に構築された新発見の障子堀について報告いただきました。この障子堀は16世紀初頭から前半と推定され、小田原城縄張の発展過程を再考させる発見となったものです。

横浜市教育委員会の須山幸雄さんと横浜都市発展記念館の青木祐介さんには「横浜市 第二代横浜駅－短命に終わった大正期の煉瓦造駅舎－」と題して、近代横浜駅、関東大震災で壊滅して短命に終わった大正期横浜駅について報告いただきました。

このほか紙上発表として、城山町教育委員会の中川真人さんには「城山町 国指定史跡川尻石器時代遺跡－縄文時代中期末～後期の石造遺構－」と題して、平成14・15年度に行った史跡整備の確認調査成果について報告していただきました。海老名市教育委員会の向原崇英さんには「海老名市 秋葉山古墳第4号墳－平成15年の確認調査から－」と題して、平成15年度に行った史跡整備に

向けての第4号墳の範囲確認学術調査について報告いただきました。

今回の遺跡調査・研究発表会は通常行ってきた遺跡調査・研究発表会とは志向を変えて、昼食後に行われてきた記念講演を行わず、新たに注目される遺跡発表に対するコメントと評価・解説を行う事としました。発表のコメントについては、発表会担当役員の打ち合わせの中から出されたものです。今回は発表を予定した注目遺跡が弥生時代と古墳時代遺跡が多かったことから、両時代のコメントを各15分の予定で行ってみました。

我々、考古学を専門に学んできた者が当たり前のように理解している遺跡・遺物の重要性や評価を、発表者とはまた違った視点や理解を会場で確認できたことは、発表の連続といった一方通行になりがちな従来の遺跡調査・研究発表会とは違った面であり、良かったのではないかと考えております。今後、どのような形式が良いのか、更に検討を重ねていきたいと考えております。

近年の遺跡調査・研究発表会では、年々参加者が減る傾向が認められ、かつてのような活気のある遺跡調査・研究発表会への方向性が問われています。このような現状の中で、遺跡調査・研究発表会だけではなく、神奈川県考古学会行事のありかたにも関わる問題です。会員ほかが多く参加できる魅力ある行事を開催していくことが大きな課題となっています。

遺跡調査・研究発表会やその他の各行事、神奈川県考古学会を更に魅力あるものとしていくには、幹事会・役員会の意識改革・開催方法・内容の再考など幹事会・役員会主導で変わってだけでなく、皆様方会員の意見や希望・要望が重要となってきます。今回の遺跡調査・研究発表会当日には、行事に関するアンケートを行いました。アンケートだけでなく総会やあらゆる機会に、どんどんご発言いただきたいと考えております。

小池 聡（発表会担当役員）

お知らせ

第28回神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨を希望の方は、まだ若干残部があります。希望の方は第28回発表会発表要旨希望の旨を明記の上、下記宛て郵便振替でお申し込み下さい。または平成17年2月6日(日)開催の考古学講座の会場でも入手できます。

代金は会員の方が1部300円、非会員の方は1200円になります。また送料は全国一律210円です。

加入者名 神奈川県考古学会

番 号 00240-9-71208

(問合せ先 天野賢一 045-252-8661)

あなたも神奈川県考古学会の企画、運営に参加してみませんか？

2005年度以降の役員を募集します！

来たる2005年は神奈川県考古学会の役員改選の年となります。役員は総務・会誌・連絡誌・発表会・講座・見学会の6部門にわかれて考古学会の運営にたずさわっています。神奈川県考古学会の活動をこれまで以上に楽しく、魅力あるものにするため、行事の内容や運営方法に会員の皆様のご意見を反映することがぜひとも必要です。

「ぜひ役員になって、こんなことを企画してみたい!」、「発表会や見学会の運営に参加したい!」という方は、ふるって役員になりませんか？

役員に応募される方は官製ハガキに、①氏名、②住所、③連絡先電話番号、④役員として取り組んでみたいことを簡単にお書き添えの上、平成17年1月15日までに下記の事務局宛にご連絡ください。多くの会員の方からの応募をお待ちしております。

《応募先》

〒251-0043

藤沢市辻堂元町4-17-4 やよい荘102

神奈川県考古学会事務局 宛

※応募された方には事務局より2月上旬以降、新年度の総会までにご連絡をいたしますのでご承知おきください。

講座「神奈川の横穴墓」開催案内

横穴墓は、1994年に本会第1回の入門考古学講座でも扱っているテーマでもあります。以来10年が経過し改めて講座のテーマといたしました。

これまでに県内の横穴墓研究も多くの資料の蓄積と、さまざまな切り口で研究が進められてきました。加えて近年では地域社会解明に視点を置き、集落や古墳を含めた古墳時代としての議論を展開する方向にあります。

このような流れを受け、今回の講座でも地域社会や時代の特徴を描き出したいと思っています。また、総括にかえて講座終了後、ミニシンポジウムも企画しております。

皆様のご来場をお待ちしております。

平成16年度考古学講座

神奈川の横穴墓

日時 平成17年2月6日(日)
午前10時15分～午後4時20分
(開場：午前10時00分)

場所 かながわ県民センター 2F ホール
参加費 無料

一発表次第一(予定・仮題を含む)

10:15 開会

開会挨拶 神奈川県考古学会 会長 寺田 兼方

午前の部 10:20～12:00

主旨説明

「学史 神奈川の横穴墓」

上田 薫 氏

「横穴墓と地域社会」

長谷川 厚 氏

「県内横穴墓の出現と終焉」

田村 良照 氏

午後の部 13:00～16:15

「古墳時代後期の土器」

鶴間 正昭 氏

「横穴墓と火葬墓」

村田 文夫 氏

「横穴墓の線刻画」

柏木 善治 氏

「古墳・横穴墓と古代氏族」

須藤 智夫 氏

ミニシンポジウム 「神奈川の横穴墓」

各講師

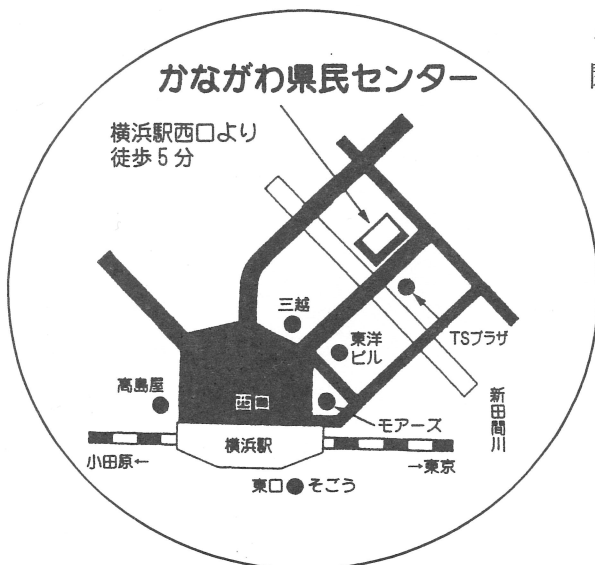
閉会挨拶

神奈川県考古学会 副会長 伊東 秀吉

16:20 閉会

紙上発表 「神奈川の横穴墓の様相」

池上 悟 氏



【会場案内】

かながわ県民センター

横浜駅西口から徒歩5分

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

TEL 045-312-1121(代表)

考古かながわ 第21～30号 目次

第21号 2001年9月26日
 神奈川県考古学会の設立の経緯について 小川 裕久
 平成13年度総会の報告 *

考古論叢神奈河第8集 論文展望
 平塚市四之宮所在の「下ノ郷廃寺」の再検討 明石 新・若林勝司
 神奈川県における古墳時代のカマドについて
 ー形態・構築材にみる地域差についてー
 依田 亮一・大上 周三
 中世の石塔における相模型の成立と展開 齊藤 彦司
 今年度の発表会・展示会 *

第22号 2002年1月31日
 2冊の追悼記念号を編集して
 日野一郎先生と岡本勇先生 川口徳治郎
 炉穴発見から60余年
 ー船橋市飛ノ台貝塚保存と活用の実と虚ー 中村 若枝
 かながわの史跡めぐり よこはま編 Part 2
 史跡称名寺境内 鈴木 重信
 考古論叢神奈河第9集 論文展望
 条痕文土器群後半期の諸段階
 ー茅山下層式・茅山上層式土器とその周辺の土器群ー
 野内 秀明
 東日本における磨製石剣の意義
 ー三浦半島赤坂遺跡出土の例を中心にー 中村 勉
 横浜考古学事始
 ー100年前の歩けオロジスト・小林與三郎のことー
 岡本 孝之
 考古かながわ 第1～17号 目次 *

第23号 2002年3月31日
 赤星直忠博士生誕百年を迎えて 大塚 眞弘
 史跡称名寺見学会に参加して つるべ落としの称名寺
 黒田 康子
 赤坂遺跡と赤坂弥生学習室 須田 英一
 平成13年度考古学講座
 「かながわの中世～鎌倉から小田原～」を開催 小林 康幸
 第25回 神奈川県遺跡調査・研究発表会 平塚大会 *

考古かながわ 第18～20号 目次 *

2002年度神奈川県考古学会総会のお知らせ *

第24号 2002年8月15日
 2002年度総会報告 *

神奈川県考古学会会則 *

群馬県保渡田古墳群見学 田中 密敬

かみつけの里博物館の案内 *

編集部後記 *

第25号 2002年12月25日
 平成14年度考古学入門講座案内
 「学史を語る ～学史を踏まえた最新の研究～」 *

見学会参加記 仏法寺跡見学会に参加して 渡辺美佐子
 安達 澄代
 第12回 鎌倉市遺跡調査・研究発表会に参加して 伊丹まどか
 研究会紹介 中世瓦研究会 小林 康幸
 書評

『海老名をめぐりにしえの土・時・草・石』 中村 若枝
 大倉幕府北遺跡出土の三鱗文銅製品 宮田 眞
 情報 *

第26号 2003年3月31日
 高座郡衙跡の保存要望書について *

西方A遺跡保存に関する要望書 *

第26回 神奈川県遺跡調査・研究発表会を終えて 大塚 眞弘
 “奥松島の貝塚群を訪ねて”に参加して 白勢 順子
 神奈川県古代寺院案内 岡本 孝之
 情報 *

第27号 2003年8月29日
 織笠さんを偲ぶ 白石 浩之
 2003年度総会を開催 小林 康幸
 情報 *

鎌倉市内発掘調査見学会 松尾 宣方
 考古学講座『学史を語る』の成果 岡本 孝之
 編集後記 *

第28号 2003年12月22日
 相模の古代集落遺跡の評価に向けて 大上 周三
 第27回 神奈川県遺跡調査・研究発表会報告 小池 聡
 平成15年度考古学入門講座 考古から近世・近代へのアプローチ
 ー神奈川県内の遺跡を中心にしてー *

中世小田原城を訪ねて 佐々木健策
 2004年1～3月の催し物情報 *

第29号 2004年3月31日
 県考古学会への独り言 明石 新
 平成15年度考古学入門講座
 「考古から近世・近代へのアプローチー神奈川県内の遺跡を中心にしてー」開催される 上原 正人
 大倉周辺遺跡群見学会に参加して 毛利加代子
 房総の古墳を訪ねて 小松 良子
 房総の古墳をめぐり見学会に参加して 白勢 順子
 伊勢原三ノ宮いにしえ散歩 井出 智之
 2004年4・5月の催し物情報 *

第30号 2004年8月19日
 無題 曾根 博明
 2004年度総会を開催 小林 康幸
 三浦市の海蝕洞穴遺跡と標式遺跡を見学して 土井 永好
 茅ヶ崎の台地と低地を歩く～茅ヶ崎文化財散歩～ 大村 浩司
 2004年8月以降の催し物情報 *

お知らせ *

2005年1～3月の催し物情報

【展示会】

★ 横浜の遺跡展－華麗な縄文土器の世界－

会 期：2004年12月11日(土)～2005年1月16日(日)

会 場：横浜市歴史博物館／横浜市都筑区

問い合わせ：045-912-7777

★「神話の世界」

会 期：2004年10月9日(土)～2005年1月30日(日)

会 場：川崎市市民ミュージアム・特別展示室／
川崎市中原区

問い合わせ：044-754-4500

★第5回 藤沢市遺跡調査速報展

－遺構・遺物が語る藤沢の歴史－

会 期：2005年2月1日(火)～2月27日(日)

開館時間：10：00～19：00※日曜日は17：00まで

会 場：藤沢市民ギャラリー常設展示室(藤沢ル
ミネプラザ6階)

展示解説：2月6日(日)・2月12日(土)・2月20日
(土)・14：00からの3回 ※2月12日(土)
は湘南考古学同好会主催の遺跡発表会終
了後(16：50頃～17：50)

★ 特別展 「古代秦野の景観にせまる」

会 期：2005年2月22日(火)～3月27日(日)

会 場：秦野市立桜土手古墳展示室／神奈川県
秦野市

問い合わせ：0463-87-5542

【講 座】

☆ 横浜の遺跡展 研究講座 「高山遺跡と勝坂式土器の世界」

日 時：2005年1月9日(日) 14:00～15:30

講 師：石井 寛氏((財)横浜市ふるさと歴史
財団埋蔵文化財センター調査研究員)

会 場：横浜市歴史博物館／横浜市都筑区

参 加 費：500円

定 員：170人(先着順・受付は13：30～)

問い合わせ：045-912-7777

☆ かながわ考古学財団 考古学講座・第5回

日 時：2月26日(土) 14:00～15:30

講 師：木村吉行氏((財)かながわ考古学財団)

テ ー マ：「未定」

会 場：かながわ県民センター 2階ホール

定 員：260名(申し込みが定員を上回る場合に
は抽選となります。)

問い合わせ：(財) かながわ考古学財団資料活用課
(神奈川県立埋蔵文化財センター内)
045-252-8661

【発表会】

○第22回 藤沢市遺跡調査発表会

期 日：2005年2月12日(土)

時 間：13：00～16：30まで

会 場：藤沢市民会館 小ホール

入場無料

発表遺跡：用田バイパス関連遺跡 用田大河内遺跡

稲荷台地遺跡群 引地脇遺跡第3地点

稲荷台地遺跡群 石名坂遺跡第4地点

稲荷台地遺跡群 石原谷遺跡第3地点

西富西原遺跡

下沢遺跡第3地点

紙上発表：慶應S.F.C. 内遺跡

稲荷台地遺跡群 石原谷遺跡第4地点

東海道藤沢宿跡

特別講演：(財) かながわ考古学財団 伊丹 徹氏
仮題 「弥生時代の稲荷台地遺跡群につ
いて」

展示解説：発表会終了後、市民ギャラリーにて発表
者による展示解説を実施。

考古かながわ 第31号

発 行 神奈川県考古学会

発行日 2004年12月27日

編集者 秋田かな子・安藤文一・
河野真知郎・渡辺 務

印 刷 (有)湘南グッド

発行者 神奈川県考古学会会長 寺田兼方
〒251-0043

藤沢市辻堂元町4-17-4 やよい荘102

郵便振替 00240-9-71208